

令和5年度 第1回しが子ども読書活動推進協議会 議事概要

日時：令和5年7月26日（水）14：00～16：00

会場：滋賀県庁新館4階 教育委員会室

出席者：小野田会長、藤内委員、市島委員、上田委員、橘委員、中島委員、宇都宮委員、
小林委員（代理：池上副主幹）、秦委員（代理：山本主任主事）、堀出委員、
横井委員（代理：松島指導主事）、澤委員（同席：下村指導主事）、
左谷委員（代理：廣部指導主事）、村田委員、廣瀬委員

事務局：生涯学習課 青根参事、上井主幹、堀田主査、藤本社会教育主事、玉利主任主事
（※傍聴、取材：なし）

1 開会

生涯学習課長挨拶

- ・今年度は新たに子ども・青少年局の子育て支援室長様に委員に加わっていただいた。
- ・第五次計画策定、「こども としょかん」検討の年
- ・学校、地域、家庭、公共図書館そして行政が連携を密にすることが肝要と考えるため、皆様からの意見や視点を大切にしていきたい。

事務局より

- ・設置要綱の確認 第1～4条読み上げ
- ・今年度は3回開催予定
- ・関係課8名の委員

自己紹介

小野田会長挨拶

- ・本日の読書の話題が滋賀の子どもたちの為に広がることを期待する。

2 議題

(1)「第4次滋賀県子ども読書活動推進計画」の進捗状況等について

○会長より

- ・「こども としょかん」の意見をできるだけ多く聞くために、(1)は短めに、(2)と(3)は一括して進行する。

○事務局（上井主幹）より説明 別添資料1～資料3参照

- ・昨年度第3回目の説明資料と同じ
- ・指標の推移は（R5.7月時点）に更新

(2)「第5次滋賀県子ども読書活動推進計画」の策定について

(3)「こども としょかん」について

○事務局（青根参事）より説明 別添資料4～資料5参照

- ・知事の公約に掲げられ発足したもの
- ・「こども としょかん」は、ハードではない。拠点をどこかに作ることを目指すものではない。
- ・資料4 P13を説明
- ・官民が一体となって実現を目指す。
- ・県政世論調査 高校生版県政モニターアンケート等も活用し、広く意見を集め、第5次計画に意見を反映させたい。
- ・基本目標と基本方針は第1次計画から継続。
- ・重点的取組事項はその都度計画されている。第5次は第4次を強化・拡充する形に。
- ・目指す姿を新設。基本目標を議論いただきたい。
- ・基本方針について、先に説明したコンセプトを方針としてよいか。
- ・P15～P16参照 子どもの読書に関する状況について。小学生の不読率が上がってきている。学校司書を配置する学校数の割合、学校図書館図書標準の達成状況ともに全国平均

を下回っている。ただ、図書標準の達成状況については、古い本が残っているという場合もあるので、一概に100%だからよい状況とは限らない。

○村田委員より説明

- ・県立図書館実施の調査結果 P18 より 公共図書館としては、学校図書館に関することに課題を感じている。特に、学校司書の配置等、学校側の人的体制の充実、学校図書館の蔵書の充実について大きな課題と感じている。

○事務局（青根参事）より説明

- ・資料5 P19 「出張こども としょかん」の実施(子ども読書PRプログラム)
- ・保育所等における読書環境調査を実施。今後調査結果を踏まえた校園への支援を検討する。

○事務局（藤本社会教育主事）より説明

- ・参考資料6 他府県の取り組み(鳥取県立図書館、島根県立図書館、埼玉県立図書館)
- ・鳥取県立図書館……指導主事が県立図書館に配置されている。
- ・島根県立図書館……学校司書を配置する市町村に対して県が財政支援(1/3 補助)
- ・埼玉県立図書館……ボランティア指導者養成講座の実施 等

○質問・意見

- 会長
- ・「こども としょかん」の意見をできるだけ多く聞くために、(1) は短めに進行する。
 - ・滋賀が目指す「こども としょかん」は、箱物ではない。目指す姿をみんなが出し合っていくことが大事。自分のイメージを委員に話してもらおう。もう少し説明してほしいことがあれば受け付けたい。
- 宇都宮
藤本
池上
- ・他府県の取り組みについて。学校司書を付ける経費の1/3 なのか。
 - ・その通り。web にも掲載されている。
 - ・不読率のデータがあるが、読書率を上げようとするものなのか。
 - ・資料4で、学校との連携が課題として挙げられているが、これが解決すれば、不読率が解決するものとするのか。
 - ・高校生が本を読まない状況がある。SNS等の浸透により、ちょっと調べればすぐに情報が手に入る時代。
 - ・YouTube や SNS 等で配信して、本の良さを宣伝したらどうか。
- 会長
- ・あえて、課の回答は保留としたい。
 - ・皆さんの意見を聞く中で、整理していきたい。
 - ・6月に第1回を開催予定だった。その時点で、お伝えしようとしていた案を。
 - ・宇都宮委員よりどうぞ。
- 宇都宮
- ・去年と今年を取組について、全てが生涯学習課のものなので、もっと他の課や部署に広げていくとよい。
 - ・個々にいる委員が関わられるような、広がりのある取組にできればよいと思う。
 - ・本来は、公共図書館のことを話すべきだが、学校図書館を充実させないといけないと感じている。
 - ・県として、学校図書館についての数値基準を入れたものをつくれないうか。
 - ・滋賀県内でも近江兄弟社の例などを参考にしてはどうか。
 - ・ガイドラインを作るには、県立学校の学校司書に集まってもらって、意見を集めればよいものができるのではないだろうか。
 - ・学校図書館の学校司書の配置について、調査があるが分かりにくい。国の予算はついていて、どの程度予算措置されているのかを調査するというやり方もある。
- 会長
橘
- ・学校図書館を主軸に検討するとよいのではないかとという提案だった。
 - ・提案にある目指す姿に書かれていることを実現するために担う人は、誰かと考えた時、読書に関わるステークホルダーに丸投げにならないか？ それより、学校司書の配置を進める方が近道になるのではないか。
- 藤内
- ・学校は確かに大きなウエイトを占めているが、幼児の読書、家庭での読書もものすごく大事。学校だけを見てはいけないと思う。
 - ・先月石川県立図書館を視察した。本とアスレチックが融合した施設で楽しそう

な空間が作られていた。図書館は静かにするところではなく、幼児がワイワイ楽しむ中に本がある、そんな環境があるのは大事。親子関係にもつながる。そこも大事にしてほしい。

市島

- ・学校図書館図書標準の達成状況について、滋賀県の中学校は最低であるという記事が載っていた。それを読んだ時、ショックだった。近江八幡市の4中学校では、こんなに低いということを考えてもみなかった。
- ・表彰されることがあったので、市長さんと読書の話をした。近江八幡市は予算がつかなくて、学校司書が一人で4校回っている。話したことがきっかけで、市長さんが、「来年度から予算を増やしましょう。」と言ってくれた。何気なく言ったことで、増やしていただけた。
- ・尾野三千代さんの研修会の中で「気をつけよう、暗い夜道とボランティア」とおっしゃっていた。学校は、ボランティアに丸投げしている。ただ好きな本を読むために来ているボランティアもいれば、もう一方で、いろいろ研修しながら回っているグループもある。前者と後者では全然違う。現場の先生たちが、そのあたりを理解しなければならない。学校現場の方と、公共図書館におられる方が子どもの読書について話し合える機会があればよい。
- ・お話ボランティア派遣事業が広がるとよいのでは。
- ・先生の中にも本を読まない人がいる。学校ぐるみ、市町ぐるみで実施する目標があってしかるべきではないか。

会長

- ・「コンセプト2 支える人を支える」のイメージをお話しくださったのではないかな。
- ・橘委員は、学校司書を支えるお話。
- ・市島委員は、ボランティアを支えるお話。

上田

- ・本はただ置いておくだけではだめだろう。仲立ちをするのが、学校司書であり、先生であり、親等。
- ・「おうちで読書」の「コトバが育つ、ココロが育つ」。読み聞かせをとおした親子の会話から幸せな気持ちや自分が大事にされていることを感じる。こういう経験を積み重ねていくのが、子どもに大事なこと。
- ・学校司書が学校図書館にいて、本と子どもの仲立ちができる。本とのつながりが広げられるきっかけとなる。
- ・図書館を中心に活動されているボランティア、学校を中心に活動されているボランティア、子育て支援を中心に活動されているボランティアが研修の機会を通じて出会えるとよい。
- ・コンセプト2 支える人を支える機会をたくさん作ってもらえると嬉しい。

会長

- ・目指す姿のキーワード
人がいる、楽しみが見つかる、「こども としょかん」

澤

- ・「こども としょかん」のイメージについて。子どもの多様性、地域の多様性、家庭の多様性。外国籍の生徒、本に触れる機会のない子もある中で、「こども としょかん」は、子どもが本に接することができる機会をどれだけ提供できるかが大事だろう。学校図書館の充実について、しっかりと市町に呼び掛ける。環境を整えていくこと。
- ・建物ではなく、違う形で本に触れあえる場所を作るのが「こども としょかん」なのかなと感じている。委員のみなさんに意見をいただくといい。
- ・図書館に図鑑を入れることを考えた時、更新可能な電子図書を検討したこともあるが、予算の段階で止まってしまった。

会長

澤

- ・紙の本をベースに進めたいと考えるか。
- ・課としては、偏った考えは持っていない。中身に触れることが大切。家で電子図書を読んでいる児童もいる。個人的には紙のよさ、装丁等。電子を広げていくのも大事なことだとは思っている。

中島

- ・子どもたちが本に触れる、親しむことが大切なのではないかな。場の設定があることが、本が大事だと思ってくれることが第1歩だと思う。学校司書の力は大きい。子どもたちへの本の紹介や配置等、工夫してくださっている。並行読書な

- ど。学校図書館をよい場所にしてくださっている。専門性を生かしてもらうためには、連携が大切。「こども としょかん」は、学校の手の届かないところに手を差し伸べてくださっている気がする。コンセプトでいうと1番、2番。
- 会長
- ・連携という言葉が出た。みんなが関わる「こども としょかん」。今日の場にたくさんの方のみなさんが来てくださっている。これは生涯学習課のこと、となってしまうとこの事業は立ち止まってしまう。
 - ・滋賀の教育大綱の原案、読書活動の推進にあるように、「こども としょかん」のコンセプトの「どこでも」に「いつでも」を加えてはどうか。県立図書館は横断検索ができるようになっている。これは「いつでも」と言っている。それこそ、子どもたちが「いつでも」本に触れられる場所があればよいのでは。
 - ・支える人を支える。そういう人を増やす。そういう人が市町に一人いてくれると、相談しやすい。県に司令塔があって、相談したり、他の市町の取組を紹介してもらったり。
 - ・昨日は大津市の研修に行ってきた。「学校図書館の研究指定をもらったからといって、学校図書館を使わなければならないと考えるなでください」と言ってきた。逆説的に。同じ時間帯の授業では、1クラスは学校図書館を使っても他のクラスは使えないことになる。学校図書館の機能を活用した授業を進めてほしいとお願いしている。読書センター、学習センター、情報センターとしての機能を、各市町のリーダーが指導していくと、学校図書館も子どもも育っていく。すると、生涯学習、生涯読書へもつながっていく。
 - ・昨今のウェルビーイング。居場所としての学校図書館が注目されていくのでは。子どもたちがそこにいくと、そこに人がいる。心がぼかぼかし、ニコニコになる。楽しくて仕方ない。人が、子どもの気持ちをぼかぼかにしたり、本をつないだり、親子をつないだり…理想論かもしれないが、そういったことをベースにして考えていただけたらいいのでは。
- 上田
- ・コンセプト3に関わって、司書は、保育園等にはおられない。環境整備を計画的に進めている園もある。
 - ・市町や県のイベントは広報が大事。
 - ・子育て世代、中・高生への広報をどのように展開するとよいだろう。
- 会長
村田
- ・県立図書館が考える「こども としょかん」とは？
 - ・市町の公共図書館が中心となって、支援していく。それを支援するのが県立図書館。市町がすることを県がするのは違う。県立図書館から来てほしいと養護学校からの意見をいただいている。今まで市町も単独では行けなかったところに、一緒にいけたら。病院にいる子どもや、養護学校の子どもなど、図書館に行けない子どもがいる。そういった子どもにも届けていけるような取組を。
- 廣部
- ・障がいのある子、自分から本に関わっていくことが難しい子がいる。本に触れる機会が大切。電子図書なら、めくるのが難しい子も読んでいける。読み聞かせ、点字。いろいろな方法で本に関わっていくことが大切。
- 山本
- ・いつでもどこでも読書ができる図書館づくりが大切。子どもが本に触れる機会をいかにつくっていくかということが大切だと感じた。
- 松島
- ・読書活動の重要性としては話し合っている。情報にふれることの重要性について気を付けているところ。インターネットの情報は、自分自身の興味があるところにしか向かない。鵜呑みにしてしまう可能性がある。本も興味のあるものに向かうが、となりに違う本があると、世界が広がる。多面的、多角的に情報に触れられる。
 - ・高校生は忙しい。本を読む時間も少ないし、一冊の本が厚いのでなかなか読み切れない。探究などでは自分自身の知りたいことや、突き詰めていきたいこと、調べたいことについて読む。高校生には高校生の読書の仕方、本への触れ方がある。
 - ・県立高校では、ライブファインダークラウドで本の相互貸借をしている。ネットワークを活用してのつながりも深まっていくといい。ハードを作るのではないのであれば、今ある箱と箱、人と人をつなぐソフト的なものがあるとよいので

- 課長
- は。
 - ・どの御意見もなるほど。それぞれの現場を踏まえておられるので、まさにその通り。それぞれの年代、現場により違う。みなさんにぴったりの施策にするのは、至難の業というのが正直なところ。
 - ・子ども・青少年局と協力して実態調査を進めている。広報についても進めていく。小さい頃から本に親しんでもらうことが大切。電子図書は手軽に見られる。「いつでも」につながる。小さい子にはあまりということもあるが、電子も年代によって有効。

3 閉会

小野田会長挨拶

- ・本日のお礼

上井主幹閉会挨拶

- ・皆様方の御協力をいただきながら、子ども読書活動の一層の展開を図っていきたい。
- ・第2回協議会は9月中旬以降、第3回協議会は11月頃に開催予定。